

201031008B

厚生労働科学研究費補助金
地域医療基盤開発推進研究事業

診療関連死における剖検に関する実態および意識調査
平成 22 年度総合研究報告書

研究代表者 池田典昭

(九州大学大学院医学研究院環境社会医学専攻教授)

2011年3月

目 次

I. 総合研究報告

診療関連死における剖検に関する実態および意識調査…………… 1

池田典昭、上白木悦子、前田正一、辻彰子

(資料)質問紙「医療に関する社会調査」…………… 23

II. 分担研究報告

診療関連死を対象とする剖検についての一般市民の意識と行動に関する基礎的研究…………… 27

上白木悦子、前田正一、池田典昭

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）

総合研究報告書

診療関連死における剖検に関する実態および意識調査

研究代表者 池田典昭

九州大学大学院医学研究院 環境社会医学専攻 教授

研究要旨

わが国では、現在、診療関連死の第三者評価制度(医療安全調査委員会(仮称))の整備について議論が進められている。当該制度が真に機能するためには、診療関連死に関係した医療従事者と遺族の双方が剖検の意義を理解し、その実施に協力する必要がある。

現在、わが国の剖検率は欧米諸国と比較すると著しく低い状況にある。しかし、剖検率の高低に影響を与える因子に関する研究は進んでいない。

そこで、本研究は、一般人を対象として調査を行い、診療関連死における剖検の意義の理解度を明らかにする。その上で、剖検率の高低に影響を与える因子を分析し、わが国の剖検率を高めるための有効な手段について提言を行うことを目的とする。

分担研究者

辻彰子（九州大学大学院医学研究院 環境社会医学専攻 助教）

研究協力者

上白木悦子（九州大学大学院医学系学府 環境社会医学専攻 博士課程）

前田正一（慶応義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 准教授）

A. 研究目的

わが国では、現在、診療関連死の第三者評価制度(医療安全調査委員会(仮称)の整備について議論が進められている。当該制度は、医療事故問題の解決(真相究明、再発防止策の構築)を図る上で重要な制度であるといえるが、この制度が真に機能するためには、診療関連死に関係した医療従事者と遺族の双方が剖検の意義を理解し、その実施に協力する必要がある。

現在、わが国の剖検率は欧米諸国と比較すると著しく低い状況にある。この理由として、遺族が剖検に同意しないこと、同意しない理由として、日本人のご遺体に対する特有の意識(「ご遺体を傷つけない」など)が挙げられることが多い。仮に遺族の意識が低剖検率の理由であれば、診療関連死の第三者評価制度を構築したとしても、十分には機能しないことになる。しかし、低剖検率の理由は、日本人特有の意識にあるのではなく、遺族が剖検の意義を十分に理解していないことにあることも考えられる。仮にこのことが低剖検率の理由であるとすれば、遺族への情報提供の強化を行うことなどにより、当該制度は機能することとなる。

そこで、本研究は、一般人を対象として調査を行い、診療関連死における剖検の意義の理解度を明らかにする。その上で、剖検率の高低に影響を与える因子を分析し、わが国の剖検率を高めるための有効な手段について提言を行うことを目的とする。

B. 研究方法

【一般人の剖検に対する意識に関する実態調査】

1) 対象者

本研究は、アンケート調査会社(日本能率協会総合研究所)に委託をし抽出をした、一般人2,300名を対象とした。

2) 調査方法

無記名・自記式の質問紙調査を実施した。

3) 調査期間

2010年2月4日～同月16日

4) 調査項目

本研究で用いた質問紙は、6つの大項目から構成されている。下記Box.に示す。

Box.

- (1) 基本属性
- (2) 剖検の意義
- (3) 低剖検率であることに関する医療側の要因及び患者側の要因
- (4) 事例「医療行為に過失がある場合」における剖検の必要性
- (5) 事例「患者の死亡と医療行為の間に因果関係がある場合」における剖検の必要性
- (6) 第三者評価制度の必要性

(倫理面への配慮)

本研究では、無記名・自記式の質問紙調査を行い、回答紙の内容からも、研究参加者の個人を特定できる情報(個人情報)は、取得しない。このため、個人情報の保護等、倫理面での問題が生じることはないと思われる。

C. 研究結果

回収率は、68.5% (1,575名)であった。
回答の記述統計を4頁以降に示す。

D. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

E. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

アンケート回答結果 記述統計

(対象：一般人)

■ 調査期間：平成22年2月4日-同月16日

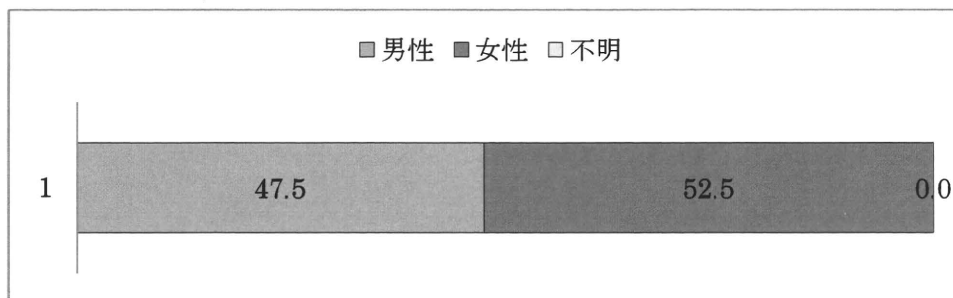
■ 回収結果：1,575名/2,300名（68.5%）

回答者について

1. 性別 : 1. 男性 2. 女性
2. 年代 : 1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代 5. 60代 6. 70代 7. 80代以上
3. 住居地 : () 都・道・府・県
4. 剖検の経験 : 1. ある 2. ない

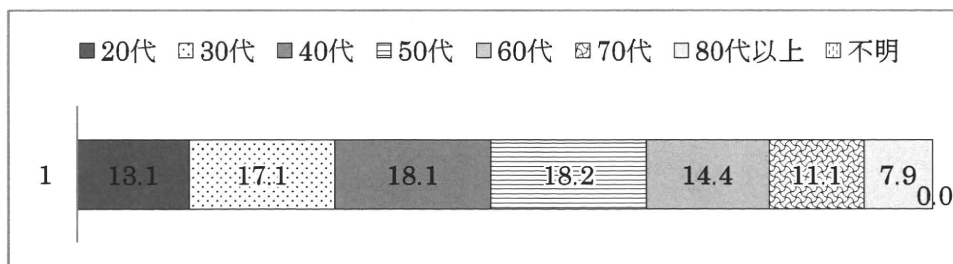
Q1. 性別

No.	カテゴリー名	n	%
1	男性	748	47.5
2	女性	827	52.5
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



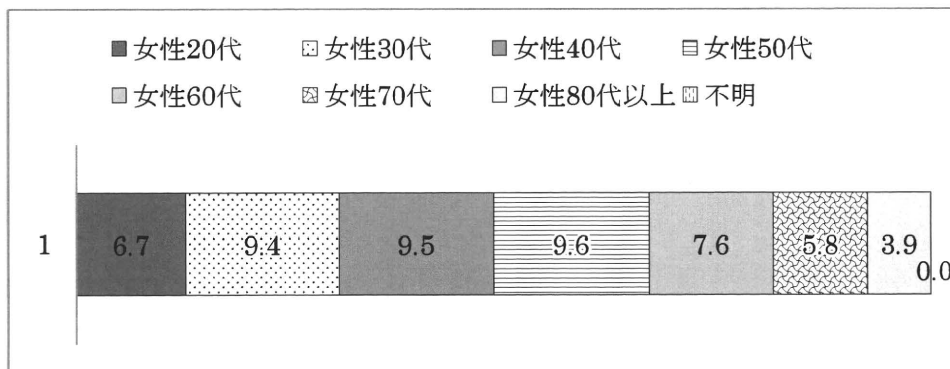
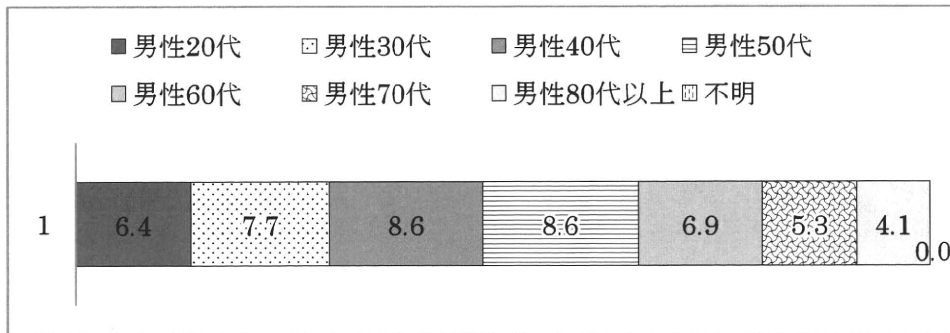
Q2. 年齢

No.	カテゴリー名	n	%
1	20代	207	13.1
2	30代	269	17.1
3	40代	285	18.1
4	50代	287	18.2
5	60代	227	14.4
6	70代	175	11.1
7	80代以上	125	7.9
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



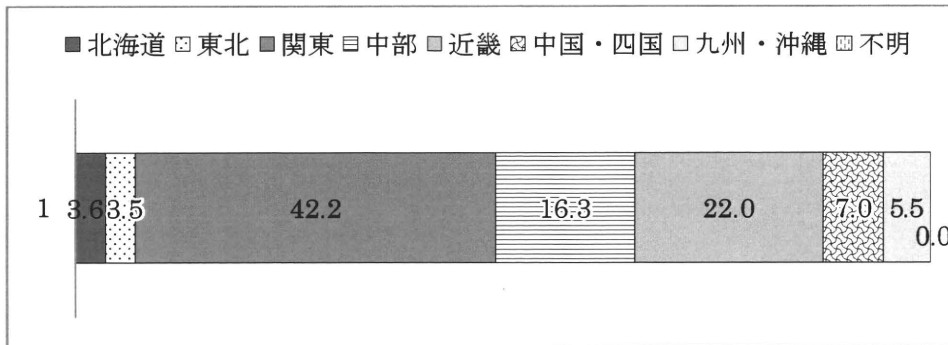
Q1×Q2. 性年齢別

No.	カテゴリー名	n	%
1	男性 20 代	101	6.4
2	男性 30 代	121	7.7
3	男性 40 代	135	8.6
4	男性 50 代	136	8.6
5	男性 60 代	108	6.9
6	男性 70 代	83	5.3
7	男性 80 代以上	64	4.1
8	女性 20 代	106	6.7
9	女性 30 代	148	9.4
10	女性 40 代	150	9.5
11	女性 50 代	151	9.6
12	女性 60 代	119	7.6
13	女性 70 代	92	5.8
14	女性 80 代以上	61	3.9
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



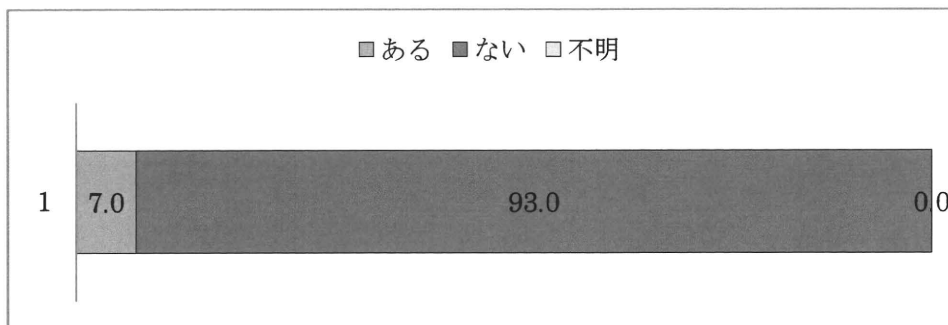
Q3. 居住地域

No.	カテゴリー名	n	%
1	北海道	56	3.6
2	東北	55	3.5
3	関東	664	42.2
4	中部	256	16.3
5	近畿	347	22.0
6	中国・四国	110	7.0
7	九州・沖縄	87	5.5
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



Q4. 剖検の経験の有無

No.	カテゴリー名	n	%
1	ある	111	7.0
2	ない	1464	93.0
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



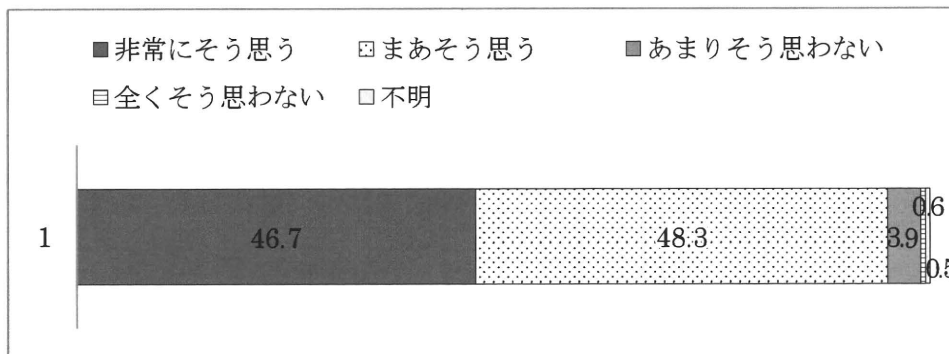
患者が死亡し、医療事故がある場合や、その疑いがある場合の剖検の意義について

Q5.一般論でお尋ねします。この場合、剖検は、死亡の原因を究明するために意義があると思いますか。

- a. 非常にそう思う b. まあそう思う c. あまりそう思わない d. 全くそう思わない

Q5. 剖検の死亡原因究明上の意義

No.	カテゴリー名	n	%
1	非常にそう思う	736	46.7
2	まあそう思う	761	48.3
3	あまりそう思わない	61	3.9
4	全くそう思わない	9	0.6
	不明	8	0.5
	全体	1575	100.0



Q6. 上記の事案が発生した場合、日本では、剖検はあまり行われていないといわれています。このことについて、医療側、患者側の要因に関してお尋ねします。

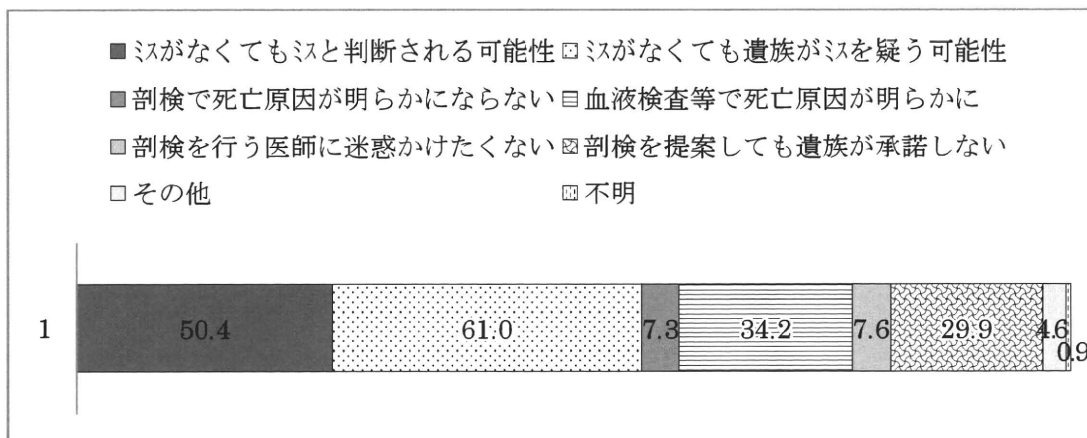
(1) 【医療側の要因】

主治医が遺族へ剖検を提案しないことが、剖検率が低い要因の一つとしてあげられることがあります。その理由として考えられるものを以下よりお選びください（複数選択可）。

1. 「剖検を行うと、医療ミスがない場合でも、医療ミスと判断される可能性がある」と主治医が考えているから
2. 「剖検を提案すると、医療ミスがない場合でも、遺族がミスを疑う可能性がある」と主治医が考えているから
3. 「剖検では死亡の原因が明らかにならない」と主治医が考えているから
4. 「血液検査等の検査データによって、死亡の原因が明らかになっているため、剖検までは必要でない」と主治医が考えているから
5. 「実際に剖検を行う医師に迷惑をかけたくない」と主治医が考えているから
6. 「剖検を提案しても遺族が承諾しない」と主治医が考えているから
7. その他（ ）

Q6-1. 剖検の非実施要因：医療側

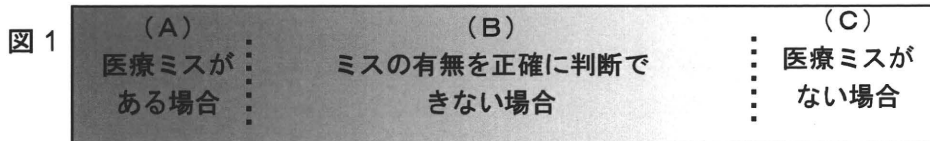
No.	カテゴリ名	n	%
1	ミスがなくてもミスと判断される可能性	794	50.4
2	ミスがなくても遺族がミスを疑う可能性	960	61.0
3	剖検で死亡原因が明らかにならない	115	7.3
4	血液検査等で死亡原因が明らかに	539	34.2
5	剖検を行う医師に迷惑かけたくない	119	7.6
6	剖検を提案しても遺族が承諾しない	471	29.9
7	その他	73	4.6
	不明	14	0.9
	全体	1575	100.0



■以下の具体例（1）をよくお読みの上、お答えください。

例えば、腹腔鏡手術を受けた患者が多量出血によって死亡したとします。このように、受けた医療が原因で患者が死亡した事案が発生したとします。

この場合、行われた医療に過失（医療ミス）があるかどうかで事案を分類すると、医療ミスがある場合（A）、ミスの有無を正確に判断できない場合（B）、医療ミスがない場合（C）に分かれます（図1参照）。



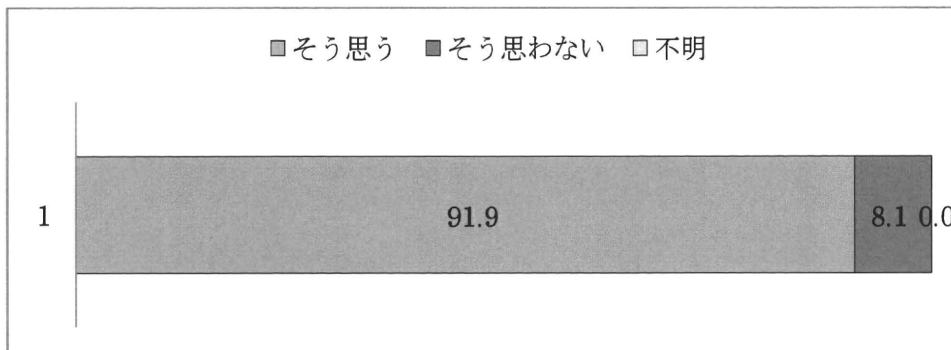
Q7. 一般論でお尋ねします。患者に、上記の事案が発生したとします。あなたの考えとして、図1の（A）～（C）の場合、剖検をしたほうがよいと思いますか。（(A)～(C)別に○は1つずつ）
※以下同様に(A)～(C)別にお答えください。

（A）医療ミスがある場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q7-A. 医療ミスがある場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1448	91.9
2	そう思わない	127	8.1
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0

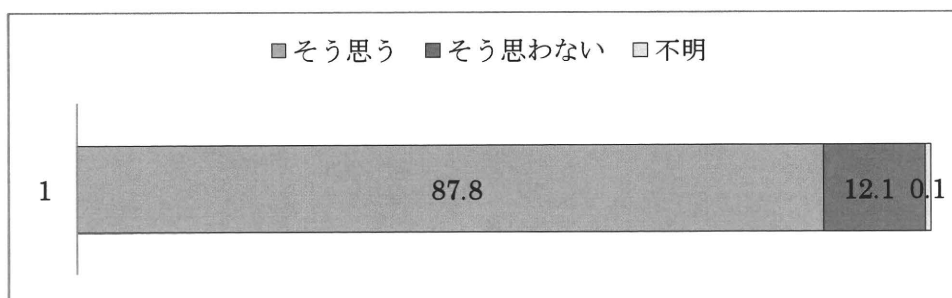


(B) ミスの有無を正確に判断できない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q7-B. 有無を正確に判断できない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1383	87.8
2	そう思わない	190	12.1
	不明	2	0.1
	全体	1575	100.0

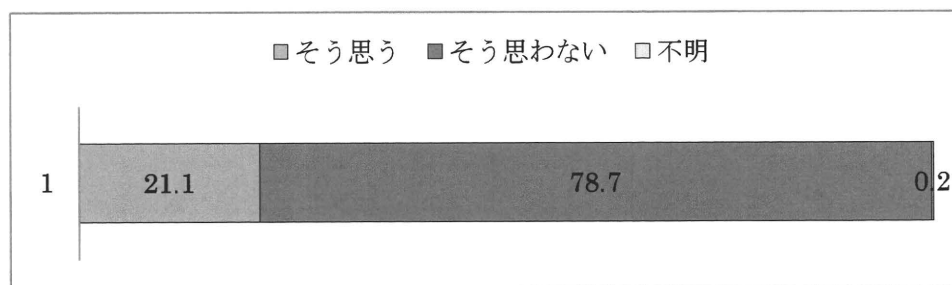


(C) 医療ミスがない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q7-C. 医療ミスがない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	333	21.1
2	そう思わない	1239	78.7
	不明	3	0.2
	全体	1575	100.0



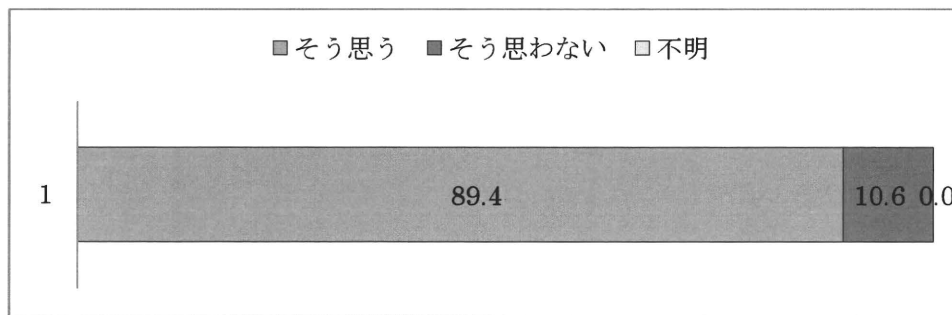
Q8. では、家族に、上記の事案が発生したとします。あなたの考えとして、剖検をしたほうがよいと思いますか。

(A) 医療ミスがある場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q8-A. 医療ミスがある場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1408	89.4
2	そう思わない	167	10.6
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0

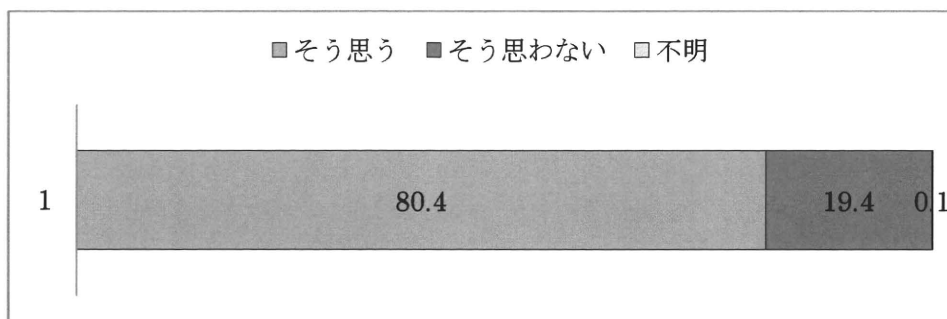


(B) ミスの有無を正確に判断できない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q8-B. 有無を正確に判断できない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1267	80.4
2	そう思わない	306	19.4
	不明	2	0.1
	全体	1575	100.0

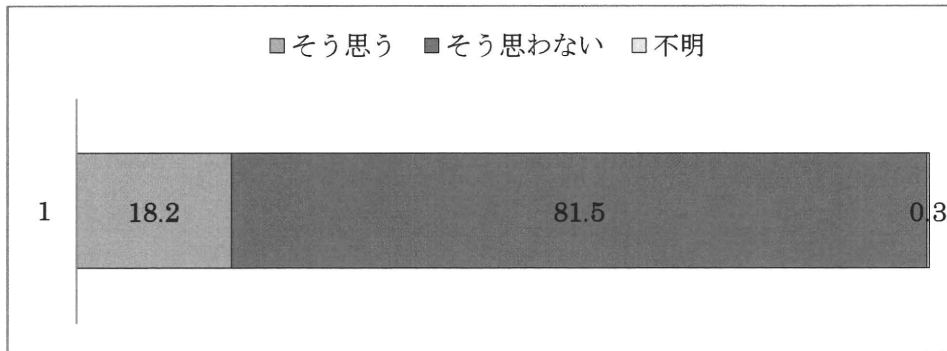


(C) 医療ミスがない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q8-C. 医療ミスがない場合.

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	287	18.2
2	そう思わない	1284	81.5
	不明	4	0.3
	全体	1575	100.0



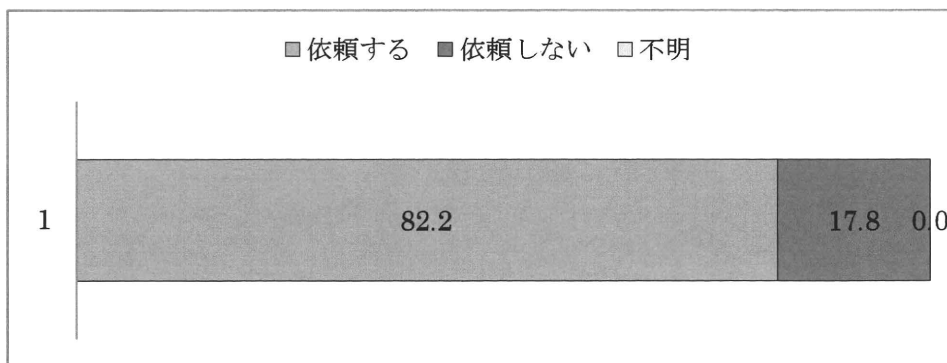
Q9. 家族に、上記の事案が生じたとします。あなたは、主治医に剖検をするよう依頼しますか。

(A) 医療ミスがある場合

1. 依頼する 2. 依頼しない

Q9-A. 医療ミスがある場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	依頼する	1294	82.2
2	依頼しない	281	17.8
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0

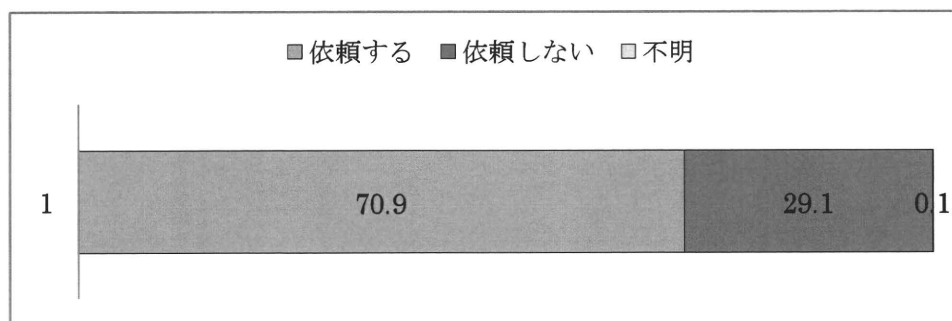


(B) ミスの有無を正確に判断できない場合

1. 依頼する 2. 依頼しない

Q9-B. 有無を正確に判断できない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	依頼する	1116	70.9
2	依頼しない	458	29.1
	不明	1	0.1
	全体	1575	100.0

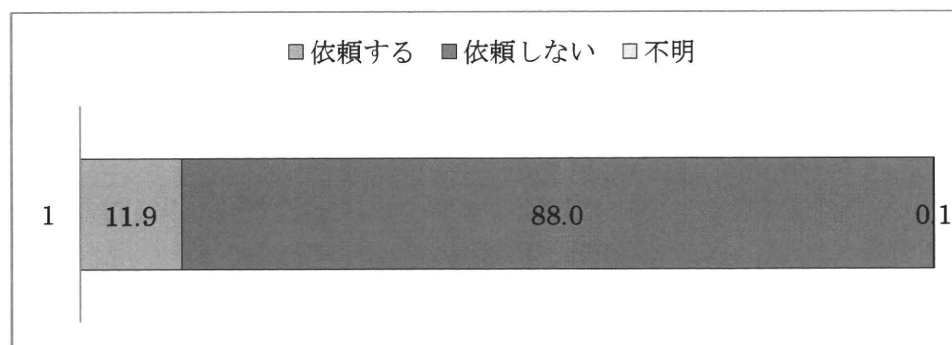


(C) 医療ミスがない場合

1. 依頼する 2. 依頼しない

Q9-C. 医療ミスがない場合

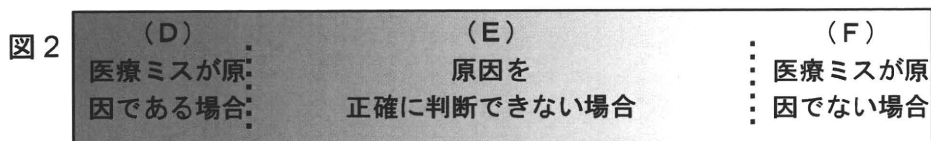
No.	カテゴリー名	n	%
1	依頼する	187	11.9
2	依頼しない	1386	88.0
	不明	2	0.1
	全体	1575	100.0



■以下の具体例（2）をよくお読みの上、お答えください。

例えば、がんの末期の患者が死亡しました。死亡前、抗がん剤が過剰に投与されるという、医療ミスが発生していました。このように、診療中の患者が死亡し、死亡の前に、医療ミスが認められた事案が発生したとします。

この場合、死亡の原因との関係で事案を分類すると、医療ミスが原因である場合（D）、原因を正確に判断できない場合（E）、医療ミスが原因でない場合（F）に分かれます（図2参照）。



Q10. 一般論でお尋ねします。患者に、上記の事案が発生したとします。あなたの考えとして、図2の（D）～（F）の場合、剖検をしたほうがよいと思いますか。

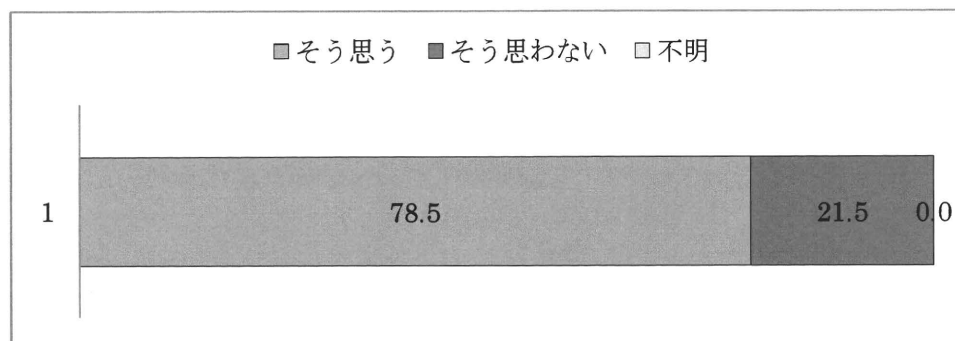
（(D)～(F)別に○は1つつつ）

（D）医療ミスが原因である場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q10-D.医療ミスが原因である場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1237	78.5
2	そう思わない	338	21.5
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0

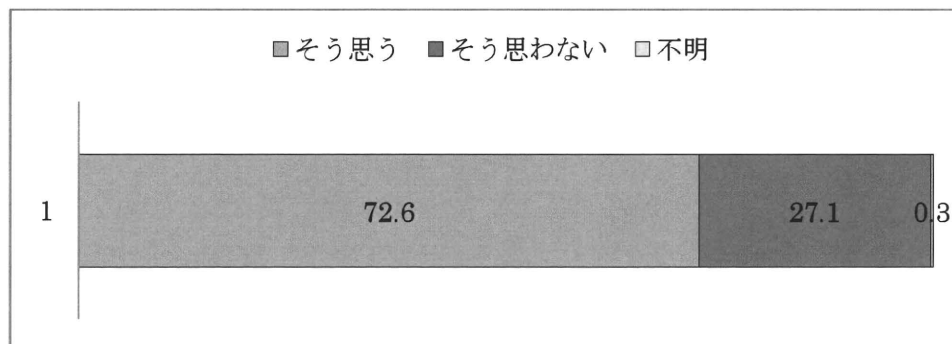


(E) 原因を正確に判断できない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q10-E.原因を正確に判断できない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1144	72.6
2	そう思わない	427	27.1
	不明	4	0.3
	全体	1575	100.0

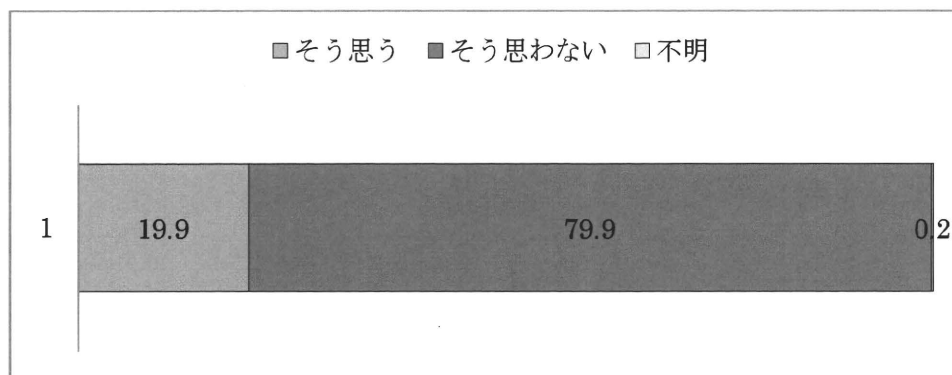


(F) 医療ミスが原因でない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q10-F.医療ミスが原因でない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	314	19.9
2	そう思わない	1258	79.9
	不明	3	0.2
	全体	1575	100.0



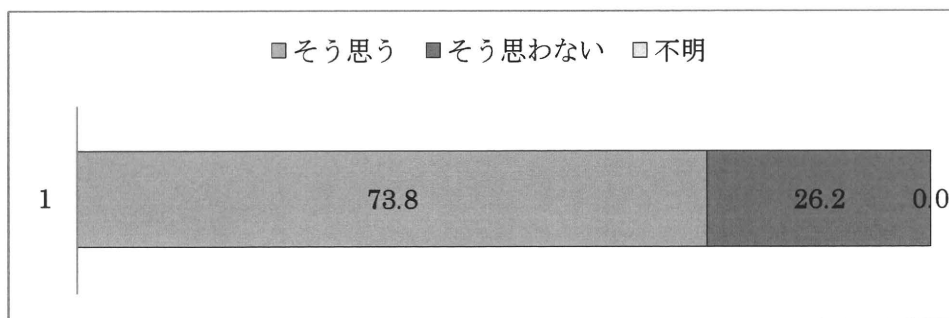
Q11. では、家族に、上記の事案が発生したとします。あなたの考えとして、剖検をしたほうがよいと思いますか。

(D) 医療ミスが原因である場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q11-D.医療ミスが原因である場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1163	73.8
2	そう思わない	412	26.2
	不明	0	0.0
	全体	1575	100.0



(E) 原因を正確に判断できない場合

1. そう思う 2. そう思わない

Q11-E.原因を正確に判断できない場合

No.	カテゴリー名	n	%
1	そう思う	1042	66.2
2	そう思わない	529	33.6
	不明	4	0.3
	全体	1575	100.0

